

みんなでつくろう
福祉コミュニティ
乙島をもっと知ろう

乙島っ子

編集発行
乙島小学校区コミュニティ協議会
乙島小学校区社会福祉協議会
広報部
倉敷市玉島乙島2228-1

伝統行事を継承する 『炎に願いを』・・・とんど焼き

副会長 早瀬 俊和

毎年一月十五日（小正月）に、コミュニティ協議会、地区社会福祉協議会共催による『とんど焼き』が、コミュニティ広場で開催されます。この行事は、お正月に門松や正月飾り等で各家庭に出迎えた年神様を、浄化の炎と共に空に見送り、新しい一年の五穀豊穡、無病息災、家内安全等を祈願する為に、全国的に行われている正月の伝統行事です。今年も実行委員が用意した竹で櫓（やぐら）を組み、各家庭から新年に飾られた門松、しめ縄、お札等が山と積まれ、乙島小学校の生徒達の書初めも持ち込まれます。準備万端、乙島幼稚園の園児達が父兄に付添われ楽しげに入場して来ます。いよいよ『とんど焼き』の点火式の始まりです。用意された竹の火種を数名の園児達が山と積まれた櫓に恐る恐る差し込むと炎は勢よく燃えあがります。

この炎が高く燃え上がる程、皆の新年への願い、希望が叶うと言われています。参加者全員が高高く燃え上がる炎に見入っています。

そして炎も下火になった頃、女性陣によるおげんざいのお接待が始まります。これが大変美味しく、二〜三杯頂く人もいます。行事も無事終わり、帰る時には差し入れて頂いたミカンも配られます。炎で暖まった体にも、このおもてなしには、心まで暖かくなります。こんな素敵な行事、是非皆様ご参加下さい。昨年は、真備地区で大災害が発生しましたが、今年こそ、平穩無事で、地区の皆様が、健康で幸せな毎日を送られます様、祈念します。



西日本豪雨避難所のボランティア活動

若者の力に感謝

東ハイツ 石井まこと

私が乙島小学校の避難所に初めて顔を出したのは避難開始後の翌日の夕方でした。避難されている方々は、意外に落ち着いているように思われました。しかし、前日激しい雨の中を真備の方々は何も持たずに避難された方が多く、衣類をはじめ何もかも不足しておりました。まず皆さんに必要なものをお聞きして回り、それを掲示板に書き出して見ました。翌日、手伝いに来てくれた高校生がその掲示板を写真に撮りSNSで流したところ、二時間後、笹沖から若い男性がSNSを見たと言って、必要なものを薬局で購入して持って来てくれました。それを皮切りに、次々に支援物資が集



まりはじめました。中には友人に呼びかけて支援物資を車二台分も届けてくれた若者たちもいました。日曜日には、中学生十数名と小学生が手伝いに来てくれ、支援物資の仕分けや体育館の清掃を一生懸命手伝ってくれました。暖かい思いで素早い支援を届けてくださった皆様に本当に感謝の気持ちで一杯です。

被災者に寄り添った六十日間

民生委員 赤沢 始

七月七日夜、全身ずぶ濡れで乙島小学校へ避難された方々の衣類やタオル集めが私の支援活動初日でした。次第に物資の揃う中、なんとも殺風景な体育館に季節の花を飾ることを仲間の方々と決めました。すると「ホッとするとするなあ。ありがと」とお礼の言葉が返ってきて、私達も嬉しい限りです。毎朝、花を介して会話の弾む中、時にはつらい胸の内をお聴きすることもあり、災害の恐ろしさを痛感しました。他の民生委員と共にささやかな支援活動でしたが、九月二日の避難所閉所までの貴重な六十日間の経験でした。

学校の先生方、地域の商店の方、コミュニティ協議会の方、地域の有志の方など延べ千二百人の方々が支援されたと聞いております。一人の力は小さいけれど、協力して助け合うことのできるべきです。真備地区の早期復興を心から願うばかりです。

地域に抱かれた学校教育

乙島小学校校長 吉田 慎悟

任して参りました。しかし、半年が過ぎた今、それは大きな思い上がりだったことに気づかされました。今から思えば、一人前の仕事ができなかった私のせいで嫌な思いをされた方もたくさんおられたと想像するのですが、みなさま、温かい笑顔で迎え入れてくださいました。当時担任させていただいた方々も、今や保護者や地域住民として学校を支えてくださっています。毎日毎日元気をいただいているのは私の方だったのです。

さらに、35年前と変わらぬ地域の結束と温もりを目の当たりにしたのが、西日本豪雨発生直後からの2か月間に及ぶ避難所支援でした。豪雨翌日からの炊き出しや着替えの調達に始まり、長期化するにつれて役割の細分化や支援人員の増員、掃除や換気、生花や送迎などなど、次から次へとアイデアを出し合い、避難所生活者の心と体を癒し続けられました。その間には、長尾のボランティアセンターや真備のサテライト、新倉敷駅等などでのボランティア支援活動にも、多くの方が尽力されたと聞いています。

学校生活でも、登下校の見守り活動や生花・フラワーボランティア、朝の読み聞かせや各教科領域でのゲストティーチャーなど、保護者・地域のみなさまに日々お世話になっています。お陰をもちまして、充実した学習環境を保つことができています。

このような地域の結束力や温かさを子どもたちに伝えることも、私の重要な使命と考えています。微力ながら、このよき伝統を守り育てることに貢献できれば幸いです。

乙島小学校は、35年前に5年間、新米教師として赴任した私がゼロから育てていただいた、私の原点となる学校です。再び勤務できる喜びと、あの5年間のご恩をぜひともお返ししたいという思いを胸に抱いて赴

郷土を愛する子どもを育てる

乙島幼稚園園長 金子 廣志

平成29年4月、本園に赴任。園舎2階に新しく落成した遊戯室で入園式を行った。

同年10月には、旧遊戯室（元乙島小学校の体育館）の解体。新しい駐車場と第二運動場が完成した。この旧遊戯室は地域の方々や卒業生たちの思い出も深く解体前に別れの会を催した。

園児、保護者のもとより地域から多くの方々にお越しいただき、当時の話を聞くことができ、この園に対する愛着もわいてきた。そういう意味で私たちにとって、かけがえのない時を過ごすことができた。

さらに本園には、樹齢百年以上のクスノキがあり倉敷市の巨樹に指定されている。

昨年度は、このクスノキと園児とが手紙のやり取りをするという極めて創造的な教育活動を展開し、倉敷市の人権教育研究会で発表した。

クスノキを擬人化するというファンタジーな取り組みに高い評価を得た。おかげ様で、優しさとかくましさをもつ園児に育ってくれた。

今後も、人や自然から愛情を一杯に受け、どんな時もたくましく生き抜いてほしいと願っている。

環境衛生の活動について

乙島支部支部長 守屋 章

日頃は環境衛生活動に対し、ご理解ご協力いただきまして有難うございます。

私達は、みんなで気持ち良く暮らして行くために活動しています。最近、ゴミのポイ捨て、犬のふんの放置など目立つようになりました。落ちてると不愉快ですよね。

私達は、大人から子供まで、みんなが気付き自然に身につくよう絶えず啓発してまいります。そして、清潔で美しく住み良い乙島にしましょう。

また、今年はゴミの減量化につながる、食品のロスに、市を挙げて取り組んでいます。

もったいないを基本に「食べ残しを少なく」「必要以上に買わない」「冷蔵庫の整理整頓」に心がけて無駄のない生活をしていきましょう。

これからも、環境衛生活動にご理解ご協力をお願い申し上げます。

親子ふれあいの会 ソーメン流しに参加して

大平山 前田由紀枝

今年は西日本豪雨災害による甚大な被害で開催も一時危ぶまれましたが、無事決行となり、参加した子ども達は皆笑顔で久々の明るい時間となりました。

我が家も昨年、息子が内臓疾患で暫く入院していた時期があり、入院中は「お腹いっぱい食べたい。外でお友達と遊びたい。」と話していたので、友だちと一緒に作った竹の器から溢れる程のソーメンをすくい、ロー杯に頬張る息子の姿を今年また見ることが出来て、私も胸が一杯になりました。流れるソーメンを必死で追う子ども達、かき氷を目一杯かき込む子ども達を地域の方々も温かく見守ってくださっていて、その光景もまた有難く、夏の良い思い出となりました。来年も親子で参加したいと思っています。

夏休みに入って最初の日曜日、小学生の兄妹と5歳の娘、友だち親子でユニティのソーメン流しに参加しました。我が家は今年で2回目の参加です。



しめ縄作りに参加して

高地 鶴川ひかる

今年で4度目の参加。毎年恒例になっている子どもたちと私の12月の行事です。

体育館の外で行う藁を濡らして叩く作業を今年も子どもたちと一緒にし、体育館へ入ると、すでに数名いらっしゃる指導員の回りにいくつかの輪ができていました。早速私たちも、その一つの輪に入れてもらい、藁の穂先を合わせ針金でまとめていると4年生の娘が何かしたいと言うので、根本部分を持たせました。すると5歳の息子も何かしたいと言うので、飛び出している藁をはさみで切っきれいに整える役をさせました。三人の合作は初めてです。出来上がったしめ縄を指導員の方に見ていただくと、「上手に出来ている」とお墨付きを戴けました。

今では簡単に手に入るしめ縄を、自分たちで手作りできるのは、とても貴重な体験だと思います。また毎年子どもたちと一緒に参加していきたいです。

郷土の誇れる「安全・楽しい・美しい」祭りの伝承！

乙島祭り保存会会長 猪木 源三



平成30年度の乙島祭りは、7月の倉敷市集中豪雨により真備町での甚大な水害が発生し各地区でイベント・祭りが中止・自粛される中での祭りとなりましたが、祭りの実行に際しては、千歳楽等への上乗り禁止、規律ある巡行と時間遵守、倉敷市重要無形民俗文化財の名に恥じない祭り、そして、真備町の人達に感動と勇気づけとなる祭りを掲げて取り組みを行いました。昭和53年乙島祭り保存会発足当時から長年まもられなかった千歳楽等への上乗り危険行為もなく、一固まりとなった本来の巡行と時間遵守など「地域のみなが楽しい郷土の誇れる祭り」を展開することが出来、各町内の皆様から「今年の祭りは立派な祭り」と称賛され実行者の一人として嬉しく思っています。平成最後の乙島祭りを保存会・F協・青年団一丸となって取り組み有言実行で終わることができましたことは、各種団体役員のご尽力と地域の皆様、神社、企業、警察、各種団体のご協力、ご支援の賜物だと感謝致しております。この祭りが新たな時代の出発点として、郷土の誇れる祭りの伝承に取り組んでまいりますので、今後とも皆様方のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

乙島の歴史

郷土史家 大島 崇雄

倉敷市に寄贈された「守屋家文書」によれば、慶長13年(1608)守屋四郎右衛門が、庄屋役を務めていたことが記されている。江戸初期頃から守屋家が乙島村の庄屋役を務めていたと考えられる。

正保4年(1647)の乙島村の様子は、次の通りであった。

田島屋敷合 45町5反8畝21歩
高合 309石1斗5合
人数 291人(男150人(内、坊主4人)女141人)
竈(かまど)数 60軒

300人足らずの村民が、海岸沿いに住んでいたと考えられる。

水谷出羽守勝美が、元禄6年(1693)死去し嗣子無しにより改易となった。

元禄8年、幕命により姫路藩主本多氏による検地が実施され、乙島村は、総反別97町4反4畝9歩、総石高860石2升5合6夕となった。

磯崎新田(東新田)・前新田・井野浦(塩田)等の新田開発により乙島村の面積が拡大した。それ以降は、小規模な開発であり、120町歩の乙島岡新開完成は幕末のことである。乙島岡新開の説明は、次号で。

「サンヒルズ乙島」町内会の紹介

町内会長 山本 祐次

サンヒルズ乙島町内会は、乙島小学校より南西に下った所にあります。

小学校に近いという事もあり、登校時には子供が坂を駆け上がって来る姿や運動会の時など元気いっぱい応援する声などが聞こえます。

西日本豪雨災害の時は小学校が避難所として運営されていたので、多くの方がボランティアとして活動されているのを見ることがありました。

平均年齢五十歳前後と若く老人会もない町内会で、全てを把握する事が難しい状況ですが年二回春と秋に総会を開いてお互いのコミュニケーションを深めるよう努力しています。

そして、乙島地域では色んな催しがある中、我が町内会も積極的に参加して地域の方ともコミュニケーションをとっていきたいと思います。

乙島祭りわたし

前新田町内会長 河田 時次

私が小・中学生のころ、乙島祭りが近づいてきて、太鼓の練習の音が聞こえだしたら、勉強どころか祭りのことで頭がいっぱいになって、学校へ行くのが嫌になりましたがそれでも登校はしました。

その当時は乙島祭りは10月30日・31日と決まっていたので、日曜日と重ならない限り、私たち中学生は祭りと学校とのバランスを保つのに大変でした。

中学校では、一クラス30人位しかいないのに乙島育ちが半分以上いて、休んだり途中から帰ったりする子がおり、先生が困っていました。

私たち中学生は千歳楽の上に乗せて貰えなくても、担ぎ棒の綱を引っ張っているだけでも楽しかったものです。

31日朝は親よりも早く起きて、千歳楽について戸島神社へ向かいました。

私の乙島祭りでの一番の思い出は、境内へ上る百七十段の階段で千歳楽が左右に揺れ、いつ倒れるかとヒヤヒヤしながら見ていたことです。

私の父はよく祭りのことを話してくれました。昔はコマがなく担いで乙島中を廻っていたと…。今では他町内ではコマで引いていますが、自分の町内に入ると皆力を合わせて担ぎ、見物の人たちと祭りを楽しんでいます。

私も早いもので69歳になりましたが、乙島祭りが近づくと尻が落ち着きません。もう一度支部長になりたいです。

事故のない町をめざして

交通安全母の会会長 上西 智美

地域の皆様には、日頃から子どもたちを見守っていただきありがとうございます。

私たち交通安全母の会は、各町内の理事さんと協力して、トレードマークの黄色いエプロンを着けて街頭指導や街頭啓発に参加することを主な活動としています。春と秋の交通安全運動期間には、広報車に乗ってパトロールを行っています。

乙島幼稚園のももたろうクラブと連携し、子どもたちの交通安全意識の向上にも取り組んでいます。残念なことに、玉島地区は事故の多い地域です。中でも乙島学区は人身事故が多発しています。特に夜間に自転車や高齢者の事故が多いので、出かける時は、明るい服装で、反射材用品やLEDライトを活用して、クルマの運転者から見やすくなるようにしてください。

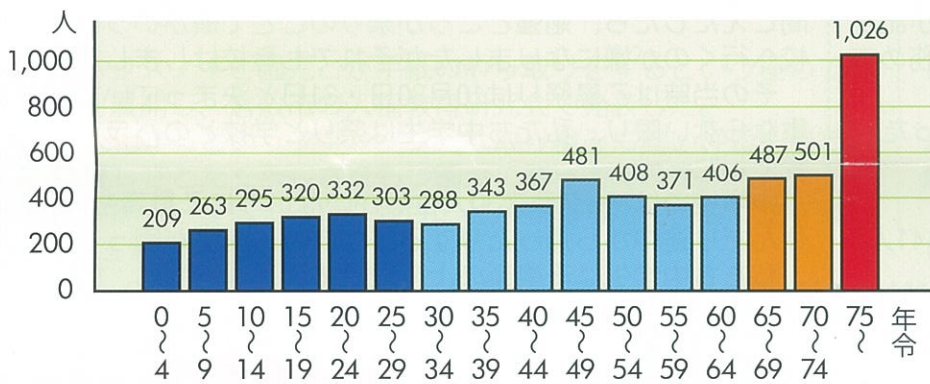
交通安全母の会は『交通安全は家庭から』を合言葉に、今後も地域の方々が安全で安心できる町づくりをめざして活動していきます。皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

平成30年度事業報告

乙島小学校区コミュニティ協議会と地区社会福祉協議会として、乙島地域の住民の皆さんが楽しく、親睦と世代を超えたふれあいが持てるよう、以下の事業を実施しました。

実施月	日	事業名	内容
5月	13	総会	平成30年度総会と「乙島の災害の歴史について」と題して歴史研究家の大島崇雄氏を招いて講演を聞いた。
6月	16	第15回乙島じゃく獲り大会	乙島の伝統漁法を使って、約170人の参加者が数を競い合い、終了後には全員で乙島じゃくのから揚げを頂き大満足でした。
7月	1	コミュニティハウス大掃除	コミュニティハウスを利用する各種団体から大勢の参加を得て、一斉大掃除を行った。
	7	乙島小学校避難所開設	西日本豪雨災害の避難者を受け入れ、この日から炊き出しなど避難所支援を開始した。
	8	少地域ケア会議	今後の避難所運営支援の方法について協議した。
	22	親子ふれあいの会	夏休み恒例の流しソーメンを親子で作った器と箸を使っておいしく食べた。また、避難者の皆さんも招待し一緒に楽しんでもらった。屋内外では450人を超える参加者で溢れた。
9月		防災会議	9月実施の倉敷市総合防災訓練が中止になったことを伝え、避難所支援への協力を依頼した。
	2	乙島小学校避難所閉鎖	60日間に渡り開設されていた小学校避難所が最後の避難者を送り出し閉鎖された。
	9	第12回敬老会	乙島各町内の高齢者の参加をいただき、長寿番付認定書の交付と記念品を参加者42名に贈呈した。
10月	30	避難所運営支援反省会	33人の参加で60日間の感想を語り、今後の避難所設置訓練に活かせる話し合いができた。
	8	第18回体育祭	晴天の秋空のもと、ふれあいを中心とした競技を約250人の参加者で楽しんだ。
	18	ミニ健康展	愛育委員会を中心に「健康」をテーマに各種イベントを実施した。
11月	28	乙島祭り	伝統の祭りを支えるために、各町内会が地域の清掃活動を行った。
	4	第16回ふれあいウォーク	今年は歴史探訪ふれあいウォーク北コースを歩いた。100人の参加者は天候にも恵まれ素晴らしい乙島を満喫した。
12月	18	第3回三世代ふれあいグランドゴルフ大会	今年は天候に恵まれ汗ばむような中で実施できた。約100名の参加者で高齢者も子どもも大きな笑い声の中で大会を楽しむことができた。
	16	注連縄作り	正月の準備を乙島小学校児童生徒と一緒に伝承活動の一端として指導を受けた。また今年も出来たお飾りを乙島地区の高齢者に配布した。
1月	15	とんど焼き	毎年幼稚園児の参加を得て、にぎやかにとんど焼きを実施した。
	27	コミュニティ文化祭	乙島地域の書画、陶芸の作者の作品を展示、子供とのふれあい活動、焼き芋づくり、餅つきをした。
2月	17	自主防災会	各自自主防災会、町内会から参加者を募り防災意識高揚のための講演会を行った。
3月	24	男の料理教室	例年男性役員が女性役員の指導を受けながら料理教室を開催する。

乙島小学校区 人口分布表 (平成30年12月末現在)



※倉敷市	高齢化率	27.05 %
※乙島小学校区	高齢化率	31.47 %
	世帯数	2,719 世帯
	人口	6,400 人
	高齢者数	2,014 人 (65才以上)

豪雨災害避難所でも らんらん運行

事務局 瀧澤 厚志

**延べ利用者数
一、三〇〇人を突破!!**

一昨年七月に事業開始した「乙島ボランティアらんらん」の利用者が三十九年度十二月末で一、三〇〇人を超えました。二十九年度報告では年間を通じて九〇〇人弱の利用者でした。この事業に直接関わる者として、次第に地域の皆さんにとって必要な事業として認知され始めたことの現れであると感じています。

昨年は西日本豪雨災害による乙島小学校避難所へ避難して来られた真備の方々にも、買い物や通院はもとより、入浴、洗濯の送迎などもさせていたいただきました。避難所には全国から行政の方々やNHK関係者の方々が報道関係者の調査などが大勢来られました。避難者の方々の移動は「？」という質問を多く受けました。このらんらんの話をすると「いいこの避難所はいいですね。」と喜んでくれました。そうした言葉を聞くと、避難所を運営できていくことがとても誇らしく思えました。

同時に、この活動を通じて、乙島コミュニティ協議会、地区社会福祉協議会が運営していることで、そこに住む私達が

自らの手で、乙島を住みよい地域にしたい。こうという実践活動を行っている訳であり、乙島小学校区の住民みんなが一緒に称賛された気分になり、とても嬉しくなりました。いま、今後もこの事業を皆んなで育てていきたいと思います。

.....

編集後記

活動は、近隣住民あるいは地域単位で無理なくできる、みんながつながるための活動を、組織として継続して行う活動です。

例えば、高齢者の見守り活動・サロン活動・非常事態に備えた取り組み等。昨年の西日本豪雨災害の際には、乙島小学校に開設された避難所へいち早く駆けつけた地域の有志の方、コミュニティ協議会の方、民生委員・愛育委員の方々は、コミュニティ・社協活動の、これぞ原点という活動をして、避難者を精神的にサポートし、多大の貢献をされました。さぞかしお疲れになられたことでしょう。

一昨年からは運行が始まった「乙島らんらん号」も、移動手段のない多くの高齢者の方々に喜んでいただいています。

避難所での体験、らんらん号の運営は、乙島の若者・中高年層の心の中で熱く燃えはじめました。決してこの機運を冷めさせてはならないと思います。

原田 謙一

- 編集委員**
- 原田 謙一
 - 江木 栄治
 - 山本 祐次
 - 川田 吉子
 - 赤沢 始